

## 福島に寄り添って

年の瀬を迎えた福島市は、雪模様です。

温暖な沿岸地域から避難している方たちにとっては、馴染みのうすい天候です。

子どもたち・先生たちは、いつもの2～3倍の時間をかけて、保育所や保育スペースに通います。

雪道を片道1時間半……。通勤・通園だけでも疲れてしまうそうです。

住み慣れた家や土地を離れ、将来の見通しが立てられないまま、避難保育所・保育スペースで2回目となる年越しです。

「そんな状況が現実です」

ある保育所の先生が言いました。

定職を見つけることができない。

家族の一人が入院しなければならない。

子どもが2人、同時に入進学する。

こうした経済的な問題だけでなく、被災地で暮らす家庭が抱える難題は、あまり解決されていません。

その現実に思いを馳せながら、来年もCYRは真摯な被災地支援活動に努めます。